

な～に谷っ戸ん田 4年目の28回目 - 脱穀と籾摺り-

と き： 平成 22 年 10 月 16 日(土) 9:30～16:40

ところ： 谷っ戸ん田

天 気： 晴れ

参加者： 園主、霧生、久保、坂本、柴田(午前)、高田夫妻、福富(午後)、松尾(午前)
松本夫妻(純さんは午後から) 計 11 名

活 動：

【午前】

- ・脱穀機 1 台と籾摺り機 2 台、発電機、道具等を田んぼ周辺に運搬。
(事前に柴田さんが園主と打ち合わせを済ませ、段取ってくれていた。)
- ・稲の周りに張っていた鳥除け用の糸を巻き取り、支柱を回収。
- ・雨天が続き、約 1 月間掛け干しする結果となった稲の束。それでも内側に湿気が残っていた為か、脱穀機(ビック大島)に何度も藁クズが詰り、とうとう動かなくなってしまった。テツさんが部品を一度解体し、詰まっていたゴミを全て取り除いて何とか復活したが、午前も遅い時間になっていた。お昼の時点で脱穀が完了したのは全体の半分程度だった。
- ・脱穀機を通してかなり米粒が残っており、ほとんどの稲は二度がげした。
- ・脱穀後の藁は 10 束程度を一つに麻紐で結束し、田んぼの畔に積み上げていった。
- ・並行して、広場の発電機につないだ籾摺り機(インペラもみすり機) 2 台で、お米のもみをとっていく作業を進めた。(松尾さん曰く、何だかパチンコをしているような楽しい作業...とのこと)
- ・昼休みに入るところで、園主と柴田さんから以下の 3 点の注意事項を改めて教えていただいた。
脱穀機を通して落ちていない籾には実が入っていないことが多く、時間もかかるので、基本的には一度通すだけにしたほうがよい。藁束を車両で運搬することになるので、藁の結束は株もとのあたりをきちんと揃え、出来るだけ高さを一律にすること。そして、5 束ずつ上下逆に重ねてかさをおさえ、崩れないようきつめに結束すること。機械を止める時は、つまみを「低」にして空運転をしてから「オフ」にすること。いきなり「オフ」にすると、次に使う時にエンジンがかかり難くなるため。また、しばらく使用する予定がない場合は、エンジンへの燃料の流れを止めて、残っている燃料を使い切ってから「オフ」にするとよい。

【昼食】

各自、お弁当。

高田家の畑でその日の朝に収穫されたナスをお土産に頂いた。

(細長く薄紫のめずらしい種類のもの。美味でした。)

【午後】

- ・午前に続き、脱穀と籾摺り作業。
- ・脱穀を一回にしたことと、秋の日差しに稲束の乾燥が進んで軽くなったせいか、作業のスピードがあがっていった。
- ・籾摺り後の玄米状態で収穫量は計 282Kg。一袋 23.5Kg に計量して袋詰めしていった。
(cf. 昨年の谷っ戸ん田は、赤米を植えずにこしひかりのみだったので一区画 28.4Kg。一昨年は今年と同じ植え付け面積で 23Kg。)
- ・機械等を清掃後、欠席の方達分の米袋と一緒に作業小屋等へ運搬して終了。赤米の刈り入れもあるので、ポニーは解体せず。
自然に作業分担がなされ、全体の流れはスムーズに進んだと思います。(ポニーから稲をとって渡す→脱穀機にかける→脱穀できているか確認する→藁の結束・運搬、脱穀した米を運搬する→籾摺り機にかける、全体の流れを見ながら、脱穀機を移動させる等...) さすが 4 年目ですね！隣の赤米の刈り入れは 11 月中頃か？また、次回は、本日出来なかった堀の内の田んぼの刈り入れか？？いずれにしても、お天気次第なのが農作業の宿命であることを実感した今年のお米作りでした。
(記録：霧生)